

編集後記

東京地方では昨冬の大雪について今春の大雨と、不順な天候が続きました。しかし、この号が御手許に届く頃には、風薫る新緑の候となり、素晴らしい季節になっている事をこの文を書きながら祈っております。

まず今号の巻頭言に日本リハ医学会の高橋会長から大変興味ある一文を頂いた。重症心身障害児をはじめとして、リハ医学の対象が次第に重度・重複化している現在の状況で考えねばならない点を指摘して頂いた。

特集「施設の再検討」は、それぞれの施設について最も造詣の深い最適な筆者を得ることができ、大変充実した特集となった。

筆者の方々に厚く御礼申し上げたい。この特集でもわかるように、日本のリハビリテーションにおいては施設の果たす役割は非常に重要である。しかし、その機能が十分に発揮されるためには多くの問題があり、これを解決するためには本特集の先生方のような人達の超人的な努力に負うところが大きかったと思われる。いずれにしても、今後のリハの発展のためにも本特集に取り上げられたような施設のリハ医学との密接な関係が深まることを期待したい。

次に、本号では「研究と報告」に九田氏らの運動覚に関する検討を掲載することが出来た。リハ領域においては運動覚は大変重要な問題であると考えられてはいるが、今まで良

い方法が無く放置されて来た分野である。氏らは等速度運動を利用してこの問題に取組み大変興味ある結果を示された。今後、これらの結果がリハ医学の臨床に役立つ方向を示して頂きたいと願うものである。

また、展望では矢部氏らの障害者プールについての論文、短報では岡本氏の在宅ねたきり老人の死亡調査といずれもリハの底辺を固めて下さったような論文である。障害者の水泳は各地で盛んに行われるようになったが、それに対しての基本的な問題の検討は十分とは言えないままに放置されている。この問題に矢部氏の論文は一石を投じた。今後、多くのリハ関係者がこのような地道な研究を重ね、障害者の水泳のあり方についても正しい方向を示して欲しい。

また、リハ医学はともすれば機能回復あるいは人間復権の医学とだけ考えられているが、医学である以上、生命の維持についてもその効果を問われなければならない。その意味からも岡本氏の論文はこれからのリハ医学の一つのあり方を示したものと言えよう。両氏の今後の発展を期待したい。

最後になってしまったが、講座の全身管理は5回目になりいよいよ興味深い問題になり、また新しい機能修復の講座もはじまる事になった。多くの読者によって活用されることを願ってあとがきとしたい。(大川嗣雄)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
河 邨 文 一 郎
五 味 重 春
砂 原 茂 一
津 山 直 一
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏 甫
緒 方 甫
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
岩 倉 博 光
江 口 壽 榮 夫
小 川 孟
荻 島 秀 男
奥 川 幸 子
加 倉 井 周 一
小 島 蓉 子
斉 藤 正 也
笹 沼 澄 子
澤 村 誠 志
高 橋 勇
高 松 鶴 吉
武 智 秀 夫
土 屋 和 夫
土 肥 豊
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 欽
長 谷 川 恒 雄
初 山 泰 弘
福 井 園 彦
松 村 秩
三 島 博 信
矢 谷 令 子
米 本 恭 三
渡 辺 英 夫
(五十音順)

(細田, 山田)

次号予告 (第13巻 第6号)

特 集 精神薄弱児のリハビリテーション

精神遅滞の成因と臨床像……国立武蔵療養所神経センター 有 馬 正 高・他
精神薄弱児の運動発達……筑波大心身障害学系 池 田 由 紀 江
精神薄弱児のリハビリテーション

通園施設を中心に……神奈川県小児療育相談センター 佐々木 正 美
重度自閉症のリハビリテーション……ともえ学園 武 村 一 郎
当事者団体の立場から……全日本精薄者育成会 皆 川 正 治

巻 頭 言 妄言であると言われるならば

幸いである……東京女子医大・痛風センター 御 巫 清 允

研究と報告 重度脳性まひ児(者)の日常生活における

24時間心拍数変動……愛知県・心身障害コロニー 下 村 勉・他
レーザー光線の除痛治療への試み……慶大 千 野 直 一・他

紹 介 環境制御装置用シミュレータ(模擬操作

装置)の開発と臨床評価……兵庫リハセンター 奥 英 久・他

講 座 リハ医に必要な全身管理(6) 泌尿器合併症……川崎医大 森 田 能 子
機能修復(2) 脊髄損傷の機能回復……国療村山病院 柴 崎 啓 一

一 頁 講 座 義肢のパーツ

(5) 骨格義足の components……岡山大・整形外科 武 智 秀 夫